

パネルディスカッション  
青果物が食べられなくなる日  
～作れない、運べない～

イーサポートリンク株式会社 代表取締役会長兼CEO 堀内 信介 氏

# 本日の内容

- TDBCでの青果物流通に関する取り組み  
物流の2024年問題でインパクトを受ける農水産品
- 青果物流通に関して本日までご登壇いただくイーサポート  
リンク株式会社の堀内会長のご紹介
- 農業生産現場の現状について
- 一般商品等との商流・物流の違いについて
- 課題解決に向けて
- まとめ

# TDBC ワーキンググループ（2024年度）

**WG01** 「事故撲滅と実現のための管理者、乗務員教育」

**WG02** 「健康経営の推進と健康課題解決」

**WG03** 「ライドシェアなどの新たな取り組みによる公共交通の未来への挑戦」

**WG04** 「人材、働き方改革、  
荷主とのパートナーシップによる2024年問題の対応」

**WG05** 「動態管理プラットフォーム（traevo）を活用した  
持続可能な物流の実現」

＜WG05A＞ 共同輸送データベース構築とその先のフィジカルインターネットの推進

＜WG05B＞ CO2排出量の精緻化を通じた物流改善とその先にあるカーボンニュートラルの実現

**＜WG05C＞ 生鮮物流の課題解決に向けた取り組み**

**WG06** 「業界共通プラットフォームへのデータ連携によるその先へ」

**WG07** 「遠隔操作・自動化で実現する安全・安心な作業現場と迅速な災害対応」

**WG08** 「無人AI点呼実現への挑戦」

**WG09** 「SDGsの推進と、カーボンニュートラル・エコドライブの実現」

# 物流の2024年問題

(1) 不足する輸送能力（全体）

|        | 不足する輸送能力の割合 | 不足する営業用トラックの輸送トン数 |
|--------|-------------|-------------------|
| 2024年度 | 14.2%       | 4.0億トン            |
| 2030年度 | 34.1%       | 9.4億トン            |

※2024年度において、拘束時間を3,400時間とした場合、不足する輸送能力は5.6%、不足する営業用輸送トン数は1.6億トンと見込まれる。

(2) 不足する輸送能力（発荷主別）（2019年度データ）

| 業 界                      | 不足する輸送能力の割合 |
|--------------------------|-------------|
| 農産・水産品<br>出荷団体           | 32.5%       |
| 建設業、建材<br>(製造業)          | 10.1%       |
| 卸売・小売業、<br>倉庫業           | 9.4%        |
| 特積み                      | 23.6%       |
| 元請の運送事業者                 | 12.7%       |
| 紙・パルプ（製造業）               | 12.1%       |
| 飲料・食料品<br>(製造業)          | 9.4%        |
| 自動車、電気・機械・精密、<br>金属（製造業） | 9.2%        |
| 化学製品(製造業)                | 7.8%        |
| 日用品（製造業）                 | 0.0%        |

(3) 不足する輸送能力（地域別）（2019年度データ）

| 地域   | 不足する輸送能力の割合 |
|------|-------------|
| 北海道  | 11.4%       |
| 東 北  | 9.2%        |
| 関 東  | 15.6%       |
| 北陸信越 | 10.8%       |
| 中 部  | 13.7%       |
| 近 畿  | 12.1%       |
| 中 国  | 20.0%       |
| 四 国  | 9.2%        |
| 九 州  | 19.1%       |

出典：「持続可能な物流の実現に向けた検討会 最終とりまとめ」

[https://www.meti.go.jp/shingikai/mono\\_info\\_service/sustainable\\_logistics/pdf/20230831\\_1.pdf](https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/sustainable_logistics/pdf/20230831_1.pdf)

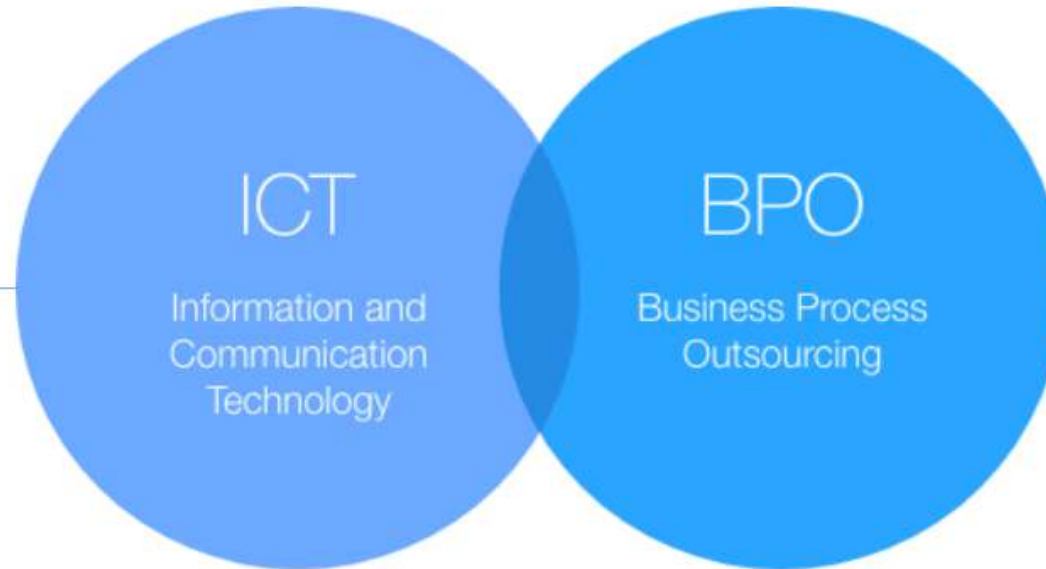
# 生鮮流通に携わるすべての人たちを、 システムと業務受託サービスでサポートします

## 生鮮流通の現場から 生まれたサービス

生鮮流通の現場を誰よりも理解する私たちが提供するサービスは確実に変革をおこします。経営の“見える化”を図り、効率化を実現します。

## クラウドサービスで 導入コストを削減

インターネット接続環境があれば導入可能でサーバやネットワークなどのインフラ整備が不要です。システム導入時の初期投資および保守費用が削減されます。



## 生鮮流通のスペシャリストが お客さまの業務をサポート

生鮮流通のスペシャリストが、365日体制で流通過程で発生するお客さまの業務を請け負いますので、お客さまはコアビジネスに集中できます。

## 作業工程の“ムダ”な手間や時間、コストを改善

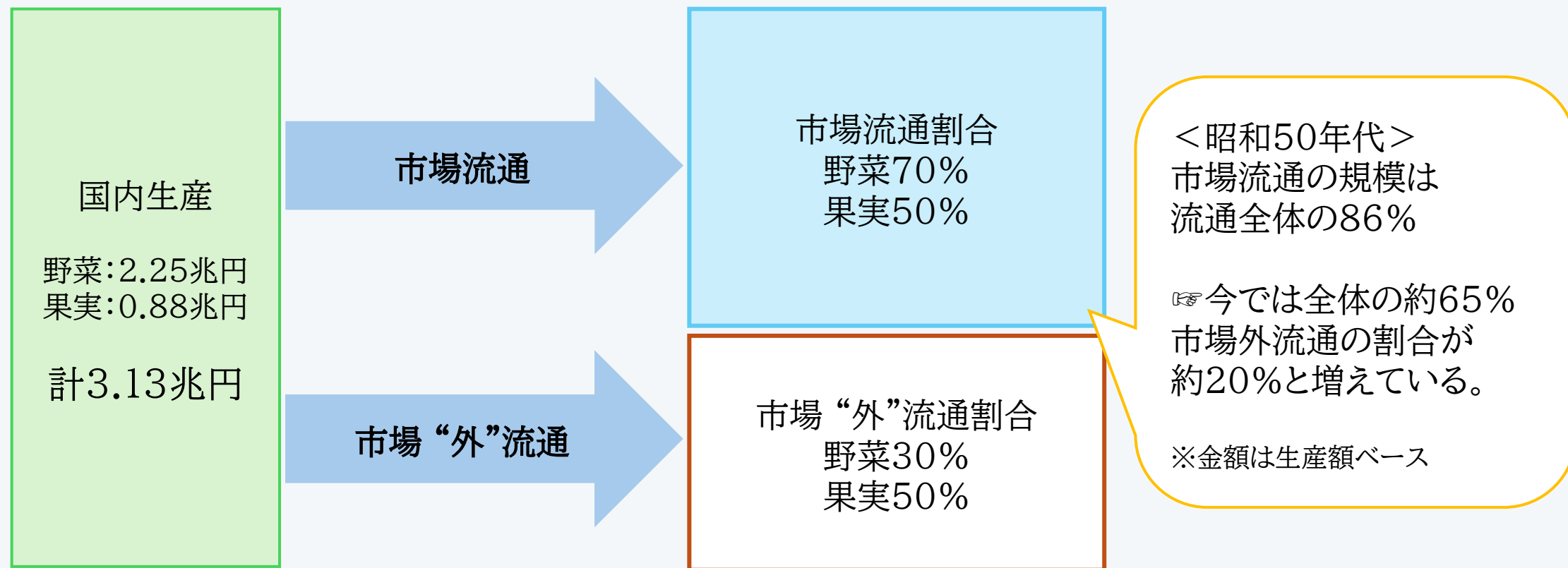
流通過程全体の調整をスムーズに行うだけではなく、作業工程の見直しや整理を行い、各工程の業務効率化をサポートします。

イーサポートリンク株式会社 ホームページから  
<https://www.e-supportlink.com/>

# 本日の内容

- TDBCでの青果物流通に関する取り組み  
物流の2024年問題でインパクトを受ける農水産品
- 青果物流通に関して本日までご登壇いただくイーサポート  
リンク株式会社の堀内会長のご紹介
- 農業生産現場の現状について
- 一般商品等との商流・物流の違いについて
- 課題解決に向けて
- まとめ

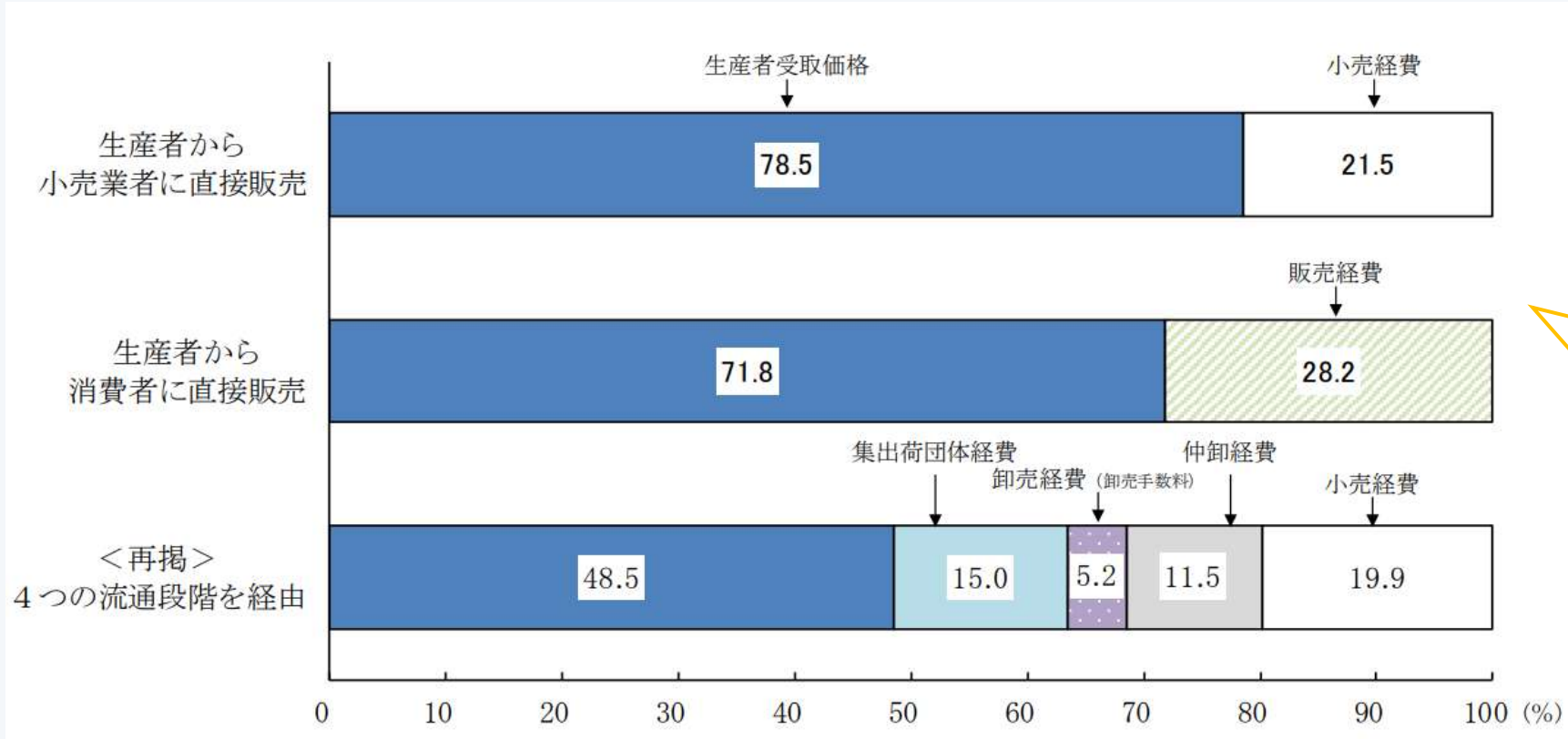
# 野菜 果実の国内流通額について



※ 米に関しては、大部分が農協経由や直販ルートで市場外流通で出回る。

野菜の2.25兆円 果実0.88兆円の計3.13兆円の流通ルートにのみ記載。

# 中間流通を除いた場合の経費割合



市場経由に比べ、  
流通経費が約半分以下  
まで抑えられる。



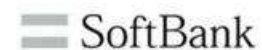
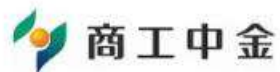
一般社団法人 運輸デジタルビジネス協議会

<https://tdbc.or.jp/>

[unyu.co@wingarc.com](mailto:unyu.co@wingarc.com)

03-5962-7370

協議会スポンサー



持続可能な運輸業界を目指し、あらたな未来へ